

認知症患者に朗報

話題の食品「フェルガード」

ここに認知症患者の興味深いデータがある。

これは、82歳の男性患者が描いたもので、アリセプト(アルツハイマー・認知症治療薬)を飲んで

いた男性が始めに描いた時計は左側だった。医師の勧めで『フェルガード』を飲んだところ、1ヶ月半で、右のような正常な時計を描けるようになったものである。

アルツハイマーについて、世界中で研究が重



ねられ、今ではこの症状が『なぜ起きるのか』『どうすれば改善するのか』ということがだいぶわかるようになってきた。

老年期の痴ほうには、大きく分けて、脳こうそく・脳出血などを主な原因とする脳血管性痴ほうと、アルツハイマー病がある。65歳以上の日本人の約6%に痴ほうがあり、そのうち60%前後がアルツハイマー病と推定されている。ここで問題

にしたいのは、今や老人向けの代名詞になった感のあるアルツハイマー病である。

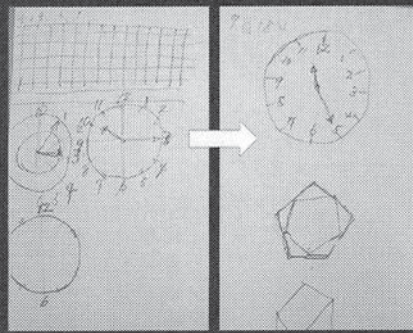
アルツハイマー病は、原因不明のまま脳の委縮と変形が徐々に進行し、完治しないという難病だ。「厄介なのは、高齢になるほどかかる頻度が高くなり、特に80歳を過ぎると急激に増えることだ」と専門家が語っている。気になるのは、わが国の高齢化は今後さらに急ピッチで進むことである。現在約百万人の痴ほう老人は、高齢化のピークに達する2020年ごろには322万人にまで膨れ上がる。

ヒトの脳には、生まれながらに数億個といわれる神経細胞がある。細胞は増殖することなく、加齢とともに死滅する。特に40歳ごろからは、一日

に数万個単位で減っていく。アルツハイマー病の患者の場合は、その減り方が著しいのが特徴だ。脳細胞の急激な減少により、この病気の特色である脳の委縮が全体的に現れ、スカスカになってしまふ。

その縮んだ脳の中に、解明の手掛かりになる貴重な遺留品が残されているらしい。それが老人斑、神経原線維変化(PPH)と呼ばれる二種類の病変である。老人斑は、いわば脳内のシミで、その中心に細い線維の塊のβアミロイドと呼ばれるタンパク質が大量に蓄積する。そしてPHFの主成分は、タウという特殊タンパク質である。最初にβアミロイドが蓄積し、タウはかなりの遅れてたまることが突き止められた。

フェルガードで時計描画が改善



初老期に発症する一部のもものは、老人斑の核に なっているβアミロイドの前駆体タンパク質(AβPP)を作る遺伝子の変異によること、65歳以上の老年期に発症するものは19番目の染色体とかなり関連があることなどが確認されている。遺伝子の異常については、21番目の染色体が1個多いために発症するダウン症候群との関連で論じられてきた。精神薄弱の一種であるダウン症では、40歳以上になると、βアミロイド、タウタンパク質が蓄積するなど、アルツハイマー病と同じ状態になることが知られている。

APP遺伝子の変異で起る家族性アルツハイマー病の一部では、βアミロイドの生産が高いことが判明している。それらのことから、βアミロイドをどの細胞が、どのように多く生産するかなどの研究が各国で進んでいるという。

βアミロイドだけを解明すればよいのかという問題はあ。だが、βアミロイドの生産を抑えられれば、難病のアルツハイマー病の予防や治療法に結び付く可能性が強い。

そして、βアミロイドに注目した結果できあがった製品がここにある。

そして、βアミロイドに注目した結果できあがった製品がここにある。